

科目名	情報 I		必履修	使用教材	新編情報 I (東京書籍) 情報最新トピック集 2026 (日経 BP) 情報 I 徹底演習 (数研出版)
学年 学級	1年 全クラス	単位数	2	教科 担当	佐藤 義弘

期間	授 業 計 画	到達目標
1 学期	(1) 情報社会の問題解決 (ア) 問題を発見・解決する方法 (イ) 法・情報セキュリティ・情報モラル (ウ) 情報技術と情報社会 (2) コミュニケーションと情報デザイン (ア) メディアとコミュニケーション (イ) 情報デザインと役割	(ア) 情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付ける (イ) 情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解する (ウ) 情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解する (ア) メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解する (イ) 情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解する
2 学期	(ウ) コミュニケーションと情報デザイン (3) コンピュータとプログラミング (ア) コンピュータのしくみと処理 (イ) アルゴリズムとプログラム (ウ) モデル化とシミュレーション (4) 情報通信ネットワークとデータの活用 (ア) ネットワークのしくみと構成要素	(ウ) 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付ける (ア) コンピュータや外部装置の仕組みや特徴、コンピュータでの情報の内部表現と計算に関する限界について理解する (イ) アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し必要な技能を身に付ける (ウ) 社会や自然などにおける事象をモデル化する方法、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解する (ア) 情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解する
3 学期	(イ) データベースの仕組みと活用 (ウ) データの収集と傾向の可視化	(イ) データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について理解する (ウ) データを表現、蓄積するための表し方と、データを収集、整理、分析する方法について理解し必要な技能を身に付ける

学習のポイント (授業中や家庭学習の方法)

- ・ 授業に集中して取り組み、授業中の課題や実習に積極的に取り組む。
- ・ 知識を活かしてコンピュータや情報機器等を積極的に活用し、利用できる知識として身につける態度が求められる。
- ・ 定期考査や Web テスト、課題や提出物の他、毎授業の「授業の振り返り」も評価の対象である。
- ・ 基本的なスキル (タイピング・アプリケーション操作) の定着のため、家庭等授業外での継続的な利用が必須。

情報科 情報Ⅰ のルーブリック					
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度		
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養	知識・技能	論理的思考力	協働力・粘り強く取り組む力 ・研究倫理		
評価規準	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めている。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身につけている。	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を身につけている。		
A	立高生として目指すべき目標	レベル4	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深め、応用できる。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉えるだけでなく、他教科の学びとの結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に応用して活用する力を身につけている。	コンピュータ等情報技術の特性を活かすことを志向し工夫したり、見通しを持った試行錯誤や評価・改善を重ねたりすることで情報と情報技術を適切に活用するとともに、これらを踏まえて情報社会に主体的に参画する態度を身につけている。
B	立高生として求める標準	レベル3	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深め、活用できる。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身につけている。	コンピュータ等情報技術の特性に配慮しながら、見通しを持った試行錯誤や評価・改善を重ねることで情報と情報技術を適切に活用するとともに、これらを踏まえて情報社会に主体的に参画する態度を身につけている。
		レベル2	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し技能の習得とともに、情報社会と人との関わりについて理解し身につけている。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身につけている。	コンピュータ等情報技術の特性を踏まえて情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を身につけている。
C	立高生として初歩的段階	レベル1	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し技能の習得とともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用する力を身につけている。	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を身につけている。
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> 定期考査・Web テスト ワークシート・提出物 授業の振り返り 行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査・Web テスト ワークシート・提出物 授業の振り返り 行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の振り返り ワークシート・提出物 行動観察 	
観点別評価		レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	

科目名	情報Ⅱ		選択	使用教材	情報Ⅱ（東京書籍）
学年 学級	3年 全クラス	単位数	2	教科 担当	山下 一郎

期間	授 業 計 画	到達目標
1 学期 中間 まで	(1) 情報社会の進展と情報技術 (2) コミュニケーションとコンテンツ (ア) メディアの特性と利用 (イ) コンテンツの制作 (ウ) コンテンツの発信 (3) 情報とデータサイエンス (ア) 社会にあふれるデータの収集と整理 (イ) データのモデル化と解釈 (ウ) データモデルの評価と検証 (4) 情報システムとプログラミング (ア) 情報システムの仕組みとセキュリティ (イ) 情報システムの設計 (ウ) 情報システムのプログラミング	(1) 多様なコミュニケーションの実現，情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに，情報技術の発展と社会の変化について理解を深める。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的，創造的に活用する力を身につける。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに，新たな価値の創造を目指し，情報社会に主体的に参画し，その発展に寄与する態度を身につける。
1 学期 中間後	(5) 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究	「情報Ⅰ」及び「情報Ⅱ」で身に付けた資質・能力を総合的に活用し，情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する活動を通して，新たな価値の創造を目指し，情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する資質・能力を高める
2 学期 中間 以降	入試問題研究	情報の入試問題を題材に解法を研究し，受験に向けての総合的な情報の力をつける。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

- ・ 探究的な学習方法を取り入れ、問題解決を軸に自ら学ぶことが求められる。
- ・ 知識を活かしてコンピュータや情報機器等を積極的に活用し、利用できる知識として身につける態度が求められる。

情報科 情報Ⅰ のルーブリック					
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度		
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養	知識・技能	論理的思考力	協働力・粘り強く取り組む力 ・研究倫理		
評価規準	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めている。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身につけている。	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を身につけている。		
A	立高生として目指すべき目標	レベル4	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深め、応用できる。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉えるだけでなく、他教科の学びとの結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に応用して活用する力を身につけている。	コンピュータ等情報技術の特性を活かすことを志し工夫したり、見通しを持った試行錯誤や評価・改善を重ねたりすることで情報と情報技術を適切に活用するとともに、これらを踏まえて情報社会に主体的に参画する態度を身につけている。
B	立高生として求める標準	レベル3	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深め、活用できる。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身につけている。	コンピュータ等情報技術の特性に配慮しながら、見通しを持った試行錯誤や評価・改善を重ねることで情報と情報技術を適切に活用するとともに、これらを踏まえて情報社会に主体的に参画する態度を身につけている。
		レベル2	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し技能の習得とともに、情報社会と人との関わりについて理解し身につけている。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身につけている。	コンピュータ等情報技術の特性を踏まえて情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を身につけている。
C	立高生として初歩的段階	レベル1	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し技能の習得とともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用する力を身につけている。	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を身につけている。
評価方法		・プレゼンテーション ・提出物 ・行動観察	・プレゼンテーション ・提出物 ・行動観察	・授業の振り返り ・提出物 ・行動観察	
観点別評価		レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	